

「互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、高きに和す、存在感のある校長会」を目指して

佐賀県小中学校校長会  
会長 深草 光明

今年度、会長を務めさせていただきます。佐賀市立兵庫小学校 深草 光明でございます。

今回66年の歴史ある佐賀県小中学校校長会会長の大役を仰せつかりました。有馬ゆかり 前会長の意を引き継ぎ、本会の目的を達成し、本県教育のさらなる振興・発展に向け、任を果たしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、アフターコロナの世の中となって1年ほどが過ぎました。令和5年度は各学校共に、行事やPTA活動等の運営を以前の状態に戻したり、新しい生活様式に合わせたものを継続したりと探りながらの取組だったのではないのでしょうか。コロナ禍においては、どのようにすれば「best」なのか、というより、どのような方法が現状で「better」なのかを中心に考え行動してきましたが、令和6年度はその「better」をより時代にマッチした「much better」に近付けることが必要だと考えます。

教育界においては、グローバル化や、少子高齢化、AIの急速な発展など、社会は急速に変化し、複雑なものとなっています。このような社会で生きていく子どもたちに、未来を切り拓いていく資質を如何にして身に付けさせていくのか…学校に求められているものも一層大きくなってきています。

そのような中私たち校長は、学力向上、いじめや不登校等の諸課題、特別支援教育の充実、GIGAスクール構想の推進、働き方改革などの課題解決に向けた取組を進めなければなりません。さらに教師不足はかなり深刻であり、学校教育の根幹を揺るがす大きな問題となっています。先に述べた教育の諸課題も教師不足の問題が解決しなければ、取組が頓挫してしまいそうです。

教師が不足している中、当面する課題や子どもたちの未来を見すえ、学校経営を行っていくことは大変なことです。だからこそ、この佐賀県小中学校校長会の存在意義があると考えます。

今年度、佐賀県校長会のスローガンは、過去4年間のスローガンに一言加え「互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、高きに和す、存在感のある校長会」としました。校長は、判断と決断の連続です。その判断をする過程においては、孤独を感じる場合もあると思います。私自身、本当にこれでよいのだろうか…と判断に迷う中で、迷う姿を職員には見せられず、顔では落ち着きながらも、心の中では焦りまくっている…ということも多々ありました。しかし孤独にはなっても、孤立はしてはいけません。地区校長会や県校長会には信頼できる仲間がたくさんいます。校長同士が信頼関係のもと、情報共有をしたり課題に取り組んだりすることが、各学校経営において有意義なものをもたらすと思います。それが、スローガンの「互いの尊重と協働」という部分です。

「しなやかさ」とは、包容的で柔軟なものの見方、考え方、場合によっては大胆な軌道修正力を併せ持つことであり、このような柔軟な見方、考え方で、子どもたちにとって、学校にとっての最善を求めて取り組んでいきましょう、と言うことを表しています。また、しなやかさをもちながらも、決してその本質を見誤ることなく、信念に基づき、子供たちのため、職員のために常に高みを目指す集団でありたいとの願いを、「高きに和す」という言葉に込めています。そのような集団で先を見通した判断力と実行力を私たちがもてるよう、地区や県の校長会で議論することで「存在感のある校長会」を目指したいと思っております。

本年度新しく41名の校長先生方を迎えた225名で、教育課題に真摯に向き合い、前進していきたいと考えております。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。